

魚類養殖の県内外の概況

新里勝也

1. 概況

沖縄県における魚類養殖も、平成5年9月の漁業権一斉更新により、区画2件、特定区画58件が設定され本格的にスタートした。

この数年来で、色、形ともにきれいなマダイが活魚として店頭に並んでいるように、養殖技術はある程度習得され、平準化してきていると思われる。

しかしながら流通面においては、非常に厳しい時期に直面している。特にマダイについては全国的な景気後退による需要の減、在庫過多による供給過剰の結果、価格が暴落し、県内の市場（主に量販店等）にまで及んでおり、県内漁家の経営を圧迫しているのが現状である。

2. 県内の生産状況及び今後の種苗導入計画

平成5年までの生産状況は表-1のとおりである。

生産量は依然としてマダイが圧倒的に多い。移入ものの影響もあり完全に県内の市場に定着している。今年の網入れ予定尾数も前年並に計画されており、この傾向は当面続くものと思われる。

ハマフエフキが減少したのは前年の種苗網入れが無かったことによるものであるが、マダイが厳しいなかで種苗の要望は強い。

また今後の導入種として、成長が早いとされるカンパチ類やハタ類の要望も非常に強いようである。

表-1 養殖魚生産状況

期 間	マ ダ イ			ハマフエフキ			魚 類 計			その他の主な魚種
	生産量	生産額	単 価	生産量	生産額	単 価	生産量	生産額	単 価	
H 2.1 ～12月	kg 44,582	千円 57,895	円 1,298	kg 1,950	千円 2,259	円 1,158	kg 47,927	千円 62,432	円 1,303	カンパチ、シマアジ、シモフリアイゴ
H 3.1 ～12月	125,294	156,252	1,247	10,109	13,316	1,317	157,217	202,081	1,285	シマアジ、シモフリアイゴ、コガネシマアジ ..
H 4.1 ～12月	137,244	168,282	1,226	14,747	18,850	1,278	157,138	192,202	1,223	チンシラー、シモフリアイゴ
H 5.1 ～12月	136,677	155,681	1,139	4,971	6,152	1,238	151,492	180,717	1,193	シマアジ、チンシラー、カンパチ

養殖種苗需要調査より（沖縄県農林水産部）

3. 全国の状況

平成4年に始まった「マダイ暴落」は依然回復の兆しが見えず、生産漁家に不安を与えている。各浜では新規魚種への切り換え等、生き残りに懸命であるが、なかには転廃業する魚家も多いようだ。

ブリについては在庫薄の影響もあり値が安定し

ているようだが、マダイについては、在庫調整が済み過剰感が緩和されるまで、今年いっぱい価格の回復は困難との見方が強い。しかし、単価が落ちた分需要は確実に増大し、荷動きも良いことから適当な価格への早めの回復も期待できそうである。

4. 今後の課題

魚類養殖をとりまく環境は全国的に厳しい状況である。このような時期に事業に取り組んでいくことは、非常に困難なことも多いが、幸い先進県には成功例、失敗例が数多くあり、今後はこれらを参考にしながら養殖業に取り組んでいくことが必要であろう。

なお、今後の具体的課題として以下4点をあげておきたい。

- ・適正な経営規模の検討
- ・販売計画にもとづいた生産体制づくり
- ・消費者のニーズに沿った製品の供給
- ・魚病対策の徹底

